

カキ生育情報

千葉県
平成25年7月号

平成25年6月の気象

平成25年6月の半旬別の気象は表1のとおり。平均気温は第2～4半旬で平年を上回った。月平均気温は20.8℃で、平年より0.1℃、前年より1.1℃高かった。

降水量は第3、第4及び第6半旬で平年を上回ったが、その他の半旬では平年を下回り、第1半旬には降雨がなかった。合計は243mmで、平年の99%、前年の124%であった。

日照時間は第2～第5半旬で平年を下回った。月合計は111時間で、平年の82%、前年の89%であった。

本年の関東地方の梅雨明けは、7月6日で平年より15日、前年より11日早かった。

表1 平成25年6月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(時間)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	18.4	19.7	19.4	0	26	3	40	28	21
2	20.3	20.1	19.2	6	31	72	19	25	25
3	21.7	20.1	18.0	72	46	11	3	23	16
4	22.3	21.2	22.2	68	47	88	15	21	16
5	21.0	21.2	20.0	15	53	21	13	19	2
6	20.9	22.1	19.5	83	42	2	21	19	45
平均/計	20.8	20.7	19.7	243	245	196	111	135	125

樹及び果実の生育

6月30日現在のカキの果径は表2に示した。横径は「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でそれぞれ3.40cm、3.89cm、「富有」が3.13cmであった。本年の横径は「西村早生」及び「松本早生富有」がそれぞれ平年並、平年より7%程度大きく、前年よりそれぞれ13%、15%程度大きかった。「富有」は平年より10%程度小さかったが、前年並であった。

縦径は「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でそれぞれ2.72cm、2.93cm、「富有」が2.59cmであった。本年の縦径は「西村早生」及び「松本早生富有」が平年よりそれぞれ1%、6%程度、前年よりそれぞれ10%、13%程度大きかった。「富有」は平年より7%、程度小さかったが、前年より1%程度大きかった。

果形指数は「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でそれぞれ1.25、1.33、「富有」が1.21であった。本年の果形指数は「松本早生富有」が平年より高く、横長の傾向であった。

本年の果実の発育は「西村早生」及び「松本早生富有」が平年よりやや進んでいる。着果量は3品種共に平年並である。「西村早生」はいすみ市、暖地園研共にスジ果の発生が平年より多い。なお、本年の生理落果は6月中旬に始まり、現時点ではまだ終了していないと思われる。いずれの品種も落果量は平年並である。今のところ目立った病害虫の発生はない。

表2 果実の生育（6月30日の果径）

品 種	調 査 地	横 径 (cm)			縦 径 (cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
西村早生	いすみ市	3.51	3.34	2.90	2.78	2.69	2.43	1.26	1.24	1.19
	暖地園研	3.28	3.43	3.14	2.65	2.67	2.52	1.24	1.28	1.25
	平 均	3.40	3.39	3.02	2.72	2.68	2.48	1.25	1.26	1.22
松本早生富有	市原市	4.44	3.74	3.43	3.09	2.71	2.56	1.44	1.38	1.34
	暖地園研	3.34	3.54	3.33	2.76	2.82	2.62	1.21	1.26	1.27
	平 均	3.89	3.64	3.38	2.93	2.77	2.59	1.33	1.32	1.31
富 有	暖地園研	3.13	3.46	3.14	2.59	2.78	2.57	1.21	1.24	1.22

果形指数：横径／縦径

平年：暖地園研は1990年～2012年の平均、いすみ市、市原市は1998年～2012年の平均

7～8月の作業

摘 果

「西村早生」では、果頂部が凹んでいる果実あるいは部分的な生育不良により不整形になった果実は、渋果のおそれがあるので摘果する。なお、8月中旬頃と収穫前の9月にも、渋果を樹上選別するための摘果を行うので、7月の時点では目標着果数(10a当たり12,000果)より2割程度多め(10a当たり14,000～15,000果)に果実を残しておく。

なお、いずれの品種も目標着果数を下回る場合は、樹勢のバランスを保ち隔年結果を助長しないようにするため、病虫害被害果の除去など必要最小限の摘果にとどめる。

枝管理

不定芽(陰芽)が発生する場合は、枝葉が込まないように芽かき、摘心を行う。また、枝葉が込み合っているところや葉が傷んでいる場合も、病害の発生を抑え、枝の充実を図るため、枝や葉を間引きして風通しを良くする。特に、炭疽病の発生した軟弱な枝は必ず摘除する。なお、2次伸長枝はこの時期は放任する。

枝葉が少ない場合は徒長枝等もせん除せず、ねん枝や誘引によって葉数確保に努める。

かん水

夏季の高温及び過乾燥が続くと、根の生育が停止して果実肥大が抑えられ、熟期の遅れ、着色不良、糖度不足、翌年の着花量不足などが生ずるので、かん水が必要である。特に、乾きやすい園、作土の浅い園では早め、多めに行いたい。

病虫害防除

7月から9月上旬は、炭疽病、落葉病、うどんこ病とカキノヘタムシガの防除時期である。ただし、「西村早生」などの極早生種では、安全使用基準に留意するとともに使用する薬剤によっては葉害が生じるので十分注意する。

カキノヘタムシガの2回目の幼虫の食害が始まるため、8月中旬に防除を行う。なお、カメムシ類の発生が多い場合は、8～9月が防除適期となる。

防除に際しては、千葉県農作物病虫害雑草防除指針を参考に行う。

【生育情報の問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>